

1-1 木村 帆南
『万能鑑定士Qの事件簿シリーズ』
松岡 圭裕著
主人公の凜田莉子が鑑定眼を生かして、次々に難事件を解決していく話ですが、「面白くて知恵がつく、人の死なないミステリー」です。あまり推理ものを読んだことのない人でも、楽しんで読める本です。



1-1 寺門 歩
『妖怪アパートの幽雅な日常』
香月 日輪著
主人公の稲葉は、高校生になり「妖怪アパート」で一人暮らしをすることになった。そのアパートは普通のアパートではなかった…。アパートの住民と関わることで、素直になれなかった稲葉が少しずつ変化していくところがいいです。



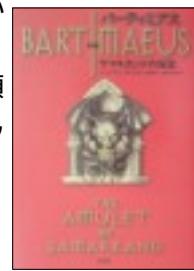
1-2 榎村 治樹
『バカとテストと召喚獣9.5』
井上 堅二著
主人公吉井明久が試験召喚システムを導入している学園内での様々な出来事を書いた本。試験召喚戦争はテストの点のよさで決まる!? 紹介している9.5は、「バカとテストと召喚獣」の外伝ですが、今までのあらすじがわからずとも楽しめます。



1-2 谷内 洋輝
『ウォーターボーイズ』
矢口 史靖著
廃部寸前の水泳部に所属する高校3年生鈴木。鈴木は大会の帰りがある光景を目にし、それをきっかけにシンクロにのめり込んでいく。ラストで主人公鈴木がパンツをはき替え劇的に最後を飾るシーンは感動ものです。



1-3 佐藤 周
『パーティミアス1』
ジョナサン・ストラウド著
まだ12歳と幼いひよっこ魔術師のナサニエルと最近5000歳になるベテラン魔術パーティミアスが繰り広げるアクションストーリー。ナサニエルの心情と、パーティミアスとの信頼関係がだんだんと深まっていく所がいいです。



1-3 梶山 聖徒
『ホーキング宇宙を語る ビックバンからブラックホールまで』
スティーブン・W・ホーキング著
この宇宙がどうやって生まれ、どんな構造をもっているのか? その問いに挑んだ、今や宇宙について語る人間必読の一冊。ホーキング自らが書き上げあげた一冊です。天才とは何か思い知らされます。



1-4 間船 大樹
『小説版 黒子のバスケ』
藤巻 忠俊著
主人公の黒子と火神達がキセキの世代を倒して最強のチームになっていく過程や、山合宿の様子など本編で語られなかった物語が楽しめます。お薦め場面は、「キセキの世代」のプレイで、ダンクやアリウープ、3Pシュートがすごいです。



1-4 矢野 衣織
『狐笛のかなた』
上橋 菜穂子著
呪者の小夜と霊狐の野火の恋と、小春丸を助けるための戦いが描かれていて、その他の登場人物達の心情が細かに描かれている本です。最終章が一番泣けます。野火の悩む姿や、思い切った行動には感動することでしょう。



1-5 江幡 芳洋
『臨場』
横山 秀夫著
刑事部鑑識課検視官の倉石が主人公の物語です。組織に与せず、己の道を貫く男の生き様が楽しめる本です。自殺に見せかけた殺人でもそのトリックを見破り、犯人を逮捕する所が見所。ドラマ化や映画化もされているのであわせて読んでみてください。



1-5 佐藤 あいり
『ルーンの子供たち』
ジョン・ミンヒ著
由緒ある家柄ジンネマン家の二男ボリス。突然、彼に襲い掛かったことはあまりにも残酷でこの運命を受け入れるには酷く若すぎた…。突然、ボリスに襲い掛かった事は何か、注目して読んでみてください。



1-6 森 康平
『キケン』
有川 浩著
新入生の2人は、とある部活のチラシに目をとめた。その名を「機研」=成南電気工科大学機械制御研究部。理系男子が引き起こす熱血青春物語。常識人の2人が破天荒なこの部活に振り回され、数々の珍事件に巻き込まれる様が面白い。



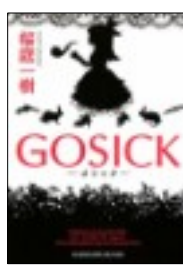
1-6 田口 航太
『名探偵の掟』
東野 圭吾著
完全密室、時刻表トリック、バラバラ死体に童謡殺人。12の難事件に挑む名探偵・天下一大五郎の物語です。すべてのトリックを解き明かした名探偵がたどり着いた「ミステリー界のなぞ」とはなんなのか、読むと驚かされます。



1-7 横川 諄美
『レインツリーの国』
有川 浩著
きっかけは「忘れられない本」。そこから始まったメールの交換。彼女に会いたいと思う彼だが、彼女にはどうしても会えない理由が…。主人公がコンプレックスと向き合い、彼と一緒に頑張るところが感動します。



1-7 二瓶 優菜
『GOSICK』
桜庭 一樹著
留学生の久城は学園の図書館で奇妙な少女・ヴィクトリカと出会う。事件に巻き込まれ彼らに危険が迫った時、ヴィクトリカは?! 小さくてとてもかわいい奇妙な少女・ヴィクトリカが難事件のなぞを解決していくところが見所です



1-8 渡邊 一樹
『ダンタリアンの書架』
三雲 岳斗著
祖父の屋敷で主人公は少女と出会う。彼女は禁断の幻書を納める書架の「扉」だった。その幻書が引き起こす事件を二人で解決していく物語。物語に出てくる幻書に注目! あと主人公と少女の会話がコミカルでとても面白い。



1-8 岡野 立稀
『呪い遊び』
Saori著
「呪の手紙」で始まったゲームの中、次々に死んでいく人々。主人公達も大切な人を呪いの手紙で呪われ殺されてしまう。怖そうな本だけど、最後は意外にも泣けます。大切な人を大切にできる本です。



1-9 生田目 紗希
『謎解きはディナーのあとで』
東川 篤哉著
国立署の新米刑事にして世界的な企業グループの総帥の娘という麗子、その執事の影山が難事件に挑戦し謎を解いていく物語です。毒舌執事とお嬢様の会話が面白い。ドラマ化もされましたが、2013年に映画化もされます。



1-9 大坪 華菜子
『ハッピーバースデー』
青木和雄&吉富多美著
出来の悪い娘あすかに対し、容赦ない言葉を浴びせる母の静代。そんな親子2人が、愛に餓え、愛を求めながら彷徨う物語。「ハッピーバースデーあすか。生まれてきてよかったね。」とあすかが自分に言う場面はぐっときます。

